

解体工事 & 建設リサイクル

隔月刊 [イー・コンテクチャー]

E-con tecture

Ecology
Construction
Architecture

隔月刊 EConecture 年6回奇数月1日の発行 通巻第111号
2022年11月1日発行 2007年7月6日第三種郵便物承認

自然と資源を再生し環境を創造する。

11

November 2022

特集 1

-規制と実務-

アスベスト対策の近況

特集 2

解体・建廃「業」と「業界」の振興策

特集 3

2022解体・建廃 北日本特集

E-Conインタビュー

平時の準備を徹底的に

(公社)福岡県産業資源循環協会 会長 酒田雅央氏

アスベスト事業に参入 除去から解体、最終処分場まで一貫

◎(株)フタマタ開発

産業廃棄物の収集運搬から中間処理、安定型最終処分場など手掛ける(株)フタマタ開発(鹿児島市西伊敷7-34-12、二俣剛社長、☎099-228-5370)は、アスベスト事業に新規参入した。石棉障害予防規則や大気汚染防止法の改正に伴い、アスベスト関連工事が急増。解体工事を手掛ける中、「アスベスト関連工事も含めて受注することで、より顧客に満足していただける」と、新規参入に踏

み切った。これにより、アスベスト除去から解体、処理・最終処分まで一貫して工事を受注することが可能になった。

最高280MPaでアスベストを除去

同社が導入した機器は、ウォータージェットブラスト用大流量・超高压水ポンプユニット「HI-JET3000GT(スギノマシン製)」。

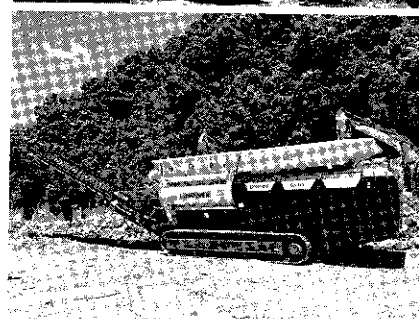


機械組立完了

導入した「HI-JET3000GT」



丁寧に除去作業する様子



◎様々な現場で活躍する「HI-JET3000GT」 ◎導入した移動式破砕機「ウラコー95DK」

最高280MPaの超高压水を発生させ、アスベストを取り除いていく。同規模の能力を持つ装置の導入は、九州地域で唯一だという。既に、県内の小学校の改修工事で使用するなど、引き合いを伸ばしている。

移動式破砕機を導入、効率的に処理

県内の解体需要が続いていることを背景に、同社は昨年、移動式破砕機「ウラコー95DK(株)リョーシン製」を導入している。持ち込まれた廃プラスチック類等を破碎。埋立処分の基準を守り、同社が保有する安定型処分場の延命化の一環として、同機を採用した。

同機は、排ガス規制に対応した770馬力の強力なディーゼルエンジンを搭載。自動調整式油圧駆動システムを2つ採り入れたことで、大量の廃棄物を効率的に処理できるという特長を持つ。軟弱地盤や最終処分場でも自走が可能な上、稼働時は固定された安定した破碎ができるのも強みだ。

創業30年にわたり着実に事業拡大

同社は1992年10月に安定型最終処分場を開設、事業を始めた。その後、2001年1

月に、がれきの中間処理を開始。2004年10月には、新たにガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず、紙くず、木くずの中間処理もスタートした。同時に、焼却施設も設置。木くず(焼却)や紙くず、繊維くずの受け入れを始めた。

がれき類や木くずの破碎施設を設置し、最終処分場の運営だけにとどまらず、資源リサイクルにも力を入れ、環境に配慮した事業に取り組み始めた。

2011年には、最終処分場を増設。その5年後、処分場を新設するなど着実に事業を拡大してきている。解体工事業許可も取得していることで、解体から中間処理、最終処分まで一貫して仕事を担えるのが最大の強みだ。2017年12月には、優良認定業者の認定を受けた。

その他、「SDGs 持続可能な開発目標」をテーマに、積極的に若手を登用。人材の育成にも力を注いでいる。

二俣剛社長は、「今回、アスベスト事業に参入した。これにより、アスベスト関連工事業から解体・処理、最終処分まで一貫した体制を構築することができた。これからも、環境保全活動を通じて地域を支え、鹿児島県の社会に貢献する企業を目指していきたい」と思いを語った。